

平成 16 年度第 1 回大台ヶ原ニホンジカ保護管理検討会

◆日 時 平成 16 年 11 月 11 日（木）14:00～17:00

◆場 所 春日野荘 天平の間（会議は公開で行われた）

◆出席者 検討委員／6名中 5 名出席（横田委員は今回より委員として出席）
関係機関／林野庁近畿中国森林管理局三重森林管理署、奈良県、三重県、
上北山村
環境省／近畿地区自然保護事務所長、他

◆議事

- (1) 大台ヶ原自然再生推進計画（案）について
- (2) シカモニタリング植生調査及び生息密度に関する調査項目について
- (3) 大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画の実施状況について
 - ①生息状況モニタリング調査結果について
 - ②影響軽減対策について
 - 1) 区域保護対策と単木保護対策について
 - 2) 個体数調整について

◆議事概要（委員からの主な指摘）

議事（1）

- ・環境省より「ニホンジカ保護管理計画」の内容を取り込んで自然再生推進計画（案）の策定を進めていることや、今後の地元説明会・パブリックコメント等のスケジュール等について説明し、11月末までに各検討委員の意見をいただくこととなった。

議事（3）

（生息状況モニタリング調査結果について）

- ・シカ密度調査結果は、実態をよく表していると考えられる。
- ・ミヤコザサ林床のところでシカが増加していることはつきりとわかる。それ以外のところで減少傾向にあるのは、シカが食べるだけ食べてエサが少なくなったということかもしれない。A 2 地区でも密度の高いところがあり（ミヤコザサ林床）、A 1・A 2 という区分にとらわれず、ミヤコザサ林床か否かという視点でゾーニングの見直しも考えるべき。
- ・特に密度の高い 3 地点については、昨年度のデータ（10 月下旬）と比較するため、これから periods の時期に再調査すべき。

（区域保護対策及び単木保護対策について）

- ・環境省より、今年度の防鹿柵（木製）及びラス巻き（老朽箇所の巻き直し）の実施状況等について説明。
- ・柵は補修が肝腎。木製は壊れやすいし、腐る。
→森林組合の協力によりこまめな点検・補修ができる体制になった。地域振興の面もありコストとの関係も含め木製柵を試行、今後耐久性等を検討していく予定。
- ・柵は、その内外の植生の違いが目に見えるので一般の人たちに対する教育的効果

が期待できる。

- ・樹皮剥ぎが増えている三津河落山南斜面などラス巻きすべきところがあり、対象箇所は検討会の意見も聞くことが必要。

(個体数調整について)

- ・事務局より、今年度の中間報告（目標 64 頭に対し 11/2までに 40 頭）と目標達成が厳しいことを説明。
- ・新たにくくりわなを使用することについては、利用者や他の動物への危害のおそれがあること、計画策定時くくりわなは使わないとしていた経緯があること等から、慎重であるべき。周知するにしても時間がかかる。
- ・今年度は、これまでの方法（アルパインキャブチャーと麻酔銃）で 11 月に加えて 3 月についても捕獲努力を続けることとし、未達成分は来年度に繰越することもやむを得ない。
- ・ミヤコザサのところを囲い、入れるが出られないような構造で狭いところに追い込むような柵を利用した捕獲も効果が高いと考えられる。ただし、今年度の作業には間に合わないので、来年度に向けて今年度中にもワーキンググループ等で検討を行う。
- ・周辺地域を含む広域的な保護管理が重要であり、生息密度等のデータについて周辺県との間の連携を確実に行うべき。

〔文責：環境省近畿地区自然保護事務所〕